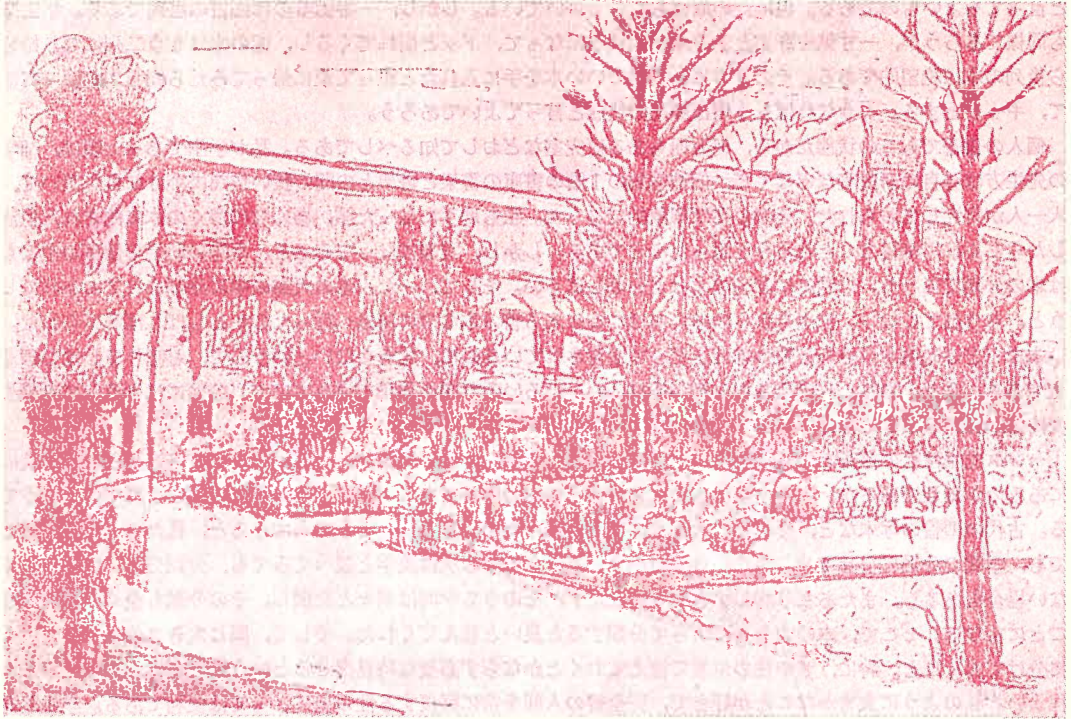


# びぶりおてか



同志社大学図書館報 第32号 1982.10.1

## 図書の分類など

神学部長 樋口和彦

あれはいつの頃だったか、ハイデルベルク大学の図書館長で、図書の分類についても専門家であられたウォールター・ヘンス博士が神学部の招きで、私たちの学部図書館の分類改訂に助言を与える目的で来学されたのは。当時、私は未だ新任の助手で、先生の下でいろいろと教えを受けることになった。ご存知のように、神学部の学部図書室はいわば日本のプロテスタントの生きた歴史のようなもので、明治8年の新島襄による創立以来、キリスト教の歴史と共に歩んできたのであった。したがって、数多くの貴重な国の内外の専門書が収納されていて、今日でも次々に亡くなられた先輩からの未整理の記録や資料の寄贈を受けている。そして、やがてこれらが整理され公開を待っている。

20年前の状況と同じであって、特に神学館（今のクラーク記念館）にあった図書室を1964年に現在の神学館に移転したばかりで、この際新しくそのために神学部図書の有効な利用ということで、国際的な機関である神学教育基金の援助を受けて専門家の派遣ということになったのである。現在も、学生の方々や教職員にも借出して利用しやすいように分類やカードが多少整備されているとしたら、その後の新大学図書館との連携援助と共に、彼の助言に負うところが大きいと今でも思っている。そして、何をおいても私に彼が印象づけたことは、図書の分類はそう簡単なことではないし、費用もかかり、そして、学問の発展と大に関係しているということであった。

私も自分の家に小さな書斎をもっている。地下の静かな場所で、いわゆる小生の知的生産の場所で、知恵の発酵する甕

### 目次

図書の分類など.....	1
大英図書館のことども.....	3
相互利用について.....	4
各国文学について(二次文献).....	5
図書館利用状況推移	
—最近5年間の利用統計より—.....	10
実例を中心とした資料の	
さがし方 -22-	12
山本覚馬の建白書「管見」の	
写本について.....	15

と言ってもよいものである。現にこの原稿もここで書いている。しかし、一番困るのは図書の整理である。学生諸君も同様であろうが、一寸気を許すとすぐ本が山積みになって、ドッと崩れてくるし、棚の本はもう二列になり始めた後列の本は絶望的である。そのうちに、本屋でいい本を手に入れたと思って家に帰って見たら同じ本が買ってあって、ギョッとする。こうなればもう病は瀕死の状態と言ってよいであろう。

個人の書齋でもこの状態だから、何万冊もある研究室などおして知るべしである。私が学生であった頃は、神学部の先生方は各自の研究室などなくて、旧神学館の1階の書庫の書架と書架との間の狭い空間に小さな机を置いて、一人一人が研究しておられた。そのお姿は印象的であった。私も助手になった頃、あんなに多くの本に囲まれた生活をしたらどんなに幸福なことだろうと思ったほどである。しかし、実際になってみると、当時の助手の仕事の主なものは本の分類であった。学問的に評判の本ほど分類しにくい。そして、一たん本の大海の中に分類されておかれてしまうと、もう出てこない。先生方からはあの本はここに入る筈の本なのに何処へ行ったのかとしばしば尋ねられた。良い本ほどどの先生も自分の分野の本だと思って期待されているのに、見当らないというので、お叱りをしばしば蒙る訳である。また、あれこれ考えると分類が遅れるし、いろいろな国の言葉で書かれていて、分類にはどうしても最少限度内容が分からなくてはいけないので、代々の助手は様々な古典語に泣いたものである。

ヘンス先生は私の書齋の悩みに面白いことを教えてくれた。中世の図書館、それは主として修道院という僧院の中にあるのが普通であるが、初期の頃は本の大きさやどの柱の回りにある本かということで分類がされていたそうである。古代の聖書の写本など、それぞれ大きさの特徴があったのであろう。そう考えてみると、私たちの書齋にある本でも、学問の分類に合せてせかく、自分の小さい書棚を哲学の次は美学と並べてみても、分類分野には一冊も本がない場合もあるし、またあまり詳しくても役立たず、そのうち学問は刻々と発展し、その分類も全く変わってしまうことにもなる。そこで、本の大きさによって分類すると良いと教えてくれた。そして、同じ大きさの中でまた大まかに分けておくこと。特に、壁や柱の位置で憶えておくことかならず必要な時見出せるというのである。やってみると成程よい。私のように大まかなことが好きで、完全癖の人間を常に軽蔑する性の男にとっては便利である。学生諸君も嘘だと思ったらやってみられるといい。そもそも古代の記憶術というのはつねに場所と結びつけて憶えることが秘訣であったようである。誰々さんという名前も、その方の生れた場所とか、出会った場所とか、とにかくその人を思い浮べた時、浮き上がってくる周囲の光景という位置の感覚で定まるらしい。だから、私は「あの本どこにいったっけなあ!!」と思いながら、その本の大きさ、体裁、出合いを思い浮べると、たちどころに思い出す。つまり、どこにあるかという位置が分かるという寸法である。どうせ私の書物など数知れているので、現在のところ、この中世式書物分類法で結構間にあっている。

そこで、思い出すが、留学したアンドーヴァー・ニュートン神学校の図書館である。やはり、ホールに柱があって、その囲りに図書の開架式の辞書など置いてあった。親しむにつれて、その柱の位置で本を憶えていった。アメリカ人の友人など、あれはどこにあると私が即座に言い当てるので不思議に思ったほどであるが、その秘密は私が秘かにつけた柱の名前のためである。東北の柱の南側の一段目のところという具合である。これは古い建物だから出来るので、新しい図書館は柱がないので困るかも知れない。もしかすると図書館は昔の修道院のようにやたらと柱があって、その蔭のひんやりしたところで読書三昧に更けるのがよいのかも知れない。

そういえば、この図書館の地下室には当時いつも民俗学的な資料がたくさん展示されていて、その中に、何故か日本のおひな様もあったのを憶えている。並べ方が、無茶苦茶であったので、係の人に教えてあげた。そして、その片隅に、新島襄がアンドーヴァーの神学校時代に使ったという粗末な椅子が飾られていた。そして、説明に新島襄は私たちの神学校が生んだ、ビルマに行ったジャドソンと並んで偉大な人物であるとの説明が印象的であった。

図書館には分類をはじめいろいろと私の想像力を高めるものが多くあるものである。



# 大英図書館のことも

北 垣 宗 治

大英図書館(The British Library)は1973年にいたるまで大英博物館の一部であった。現在では制度的に独立しており、ゆくゆくは近くのユーストンに独自の本館を建設する予定らしいが、今のところはまだブルームズベリーの大英博物館の中心部に位置を占めている。この世界有数の図書館はいろんな意味で興味深い。私は1955年から56年にかけて半月間、また1972年夏に34日間ここに通ったことがあるので、利用者としての経験に基づいて紹介を試みようと思う。

まずこの図書館の規模であるが、蔵書数は850万冊以上といわれる。これはソ連の国立レーニン図書館の2,500万冊、米国の議会図書館の1,500万冊はもちろん、ハーバード大学図書館の900万冊にも及ばない。しかし英国内で出版される書物は必ず一冊がここにおさめられるという中心的な国立図書館である以上、蔵書数は刻々にふえている。

ここに言う冊数は印刷された刊行物のことであるが、その外に古い手書きの資料約15万点を保有し、そこには紀元前三世紀にさかのぼるものもある。ヘブル語、ギリシア語、ラテン語、古英語関係のものがおびただしく存在し、その点でもここはユニークな宝庫だといえる。しかしこれから先は、印刷刊行物に限定して話をすすめていく。

この図書館は誰でも自由に利用できるわけではなく、その入場券を入手するには、何らかの分野での研究者であるという証明が必要である。年令も21歳以上とされている。私の場合、留学先のセント・アンドルーズ大学のチューターだったR・M・ローガン先生からの紹介状で十分だった。それから17年たって1972年に再訪したときには、17年前の「実績」がものを言い、二箇月分の入場パス(無料)は即刻もらうことができた。

図書館の記録によると、ジョンソン博士がこの入場券を入手したのは1761年のことだった。スコットが1799年、チャールズ・ラムが1804年、ディケンズが1830年、そしてカーライルが1831年である。ただしこれは古くて狭い旧館時代のことで、あの円筒型にドームのついた堂々たる新館がオープンしたのは1857年のことだった。カール・マルクスは『資本論』をここで書いたが、マルクスの利用した座席の位置はこの図書館の秘密となっている。それを明示すると席の奪い合いが起こるかもしれないからである。

この円型の大読書室を設計したのはマルクスの時期の図書館長だったアントニオ・パニッツィーというイタリア人である。中央の円天井の高さが32メートル、読書室の直径43メートルである。円型のカウンターが中央にあり、そのぐりを二重にカタログの台が取巻き、その次に放射状に閲覧用の席が並んでいる。1955年当時にはゆったりとした肘掛け椅子で、電気スタンドなどもヴィクトリア朝らしい凝ったものであった。1972年には、利用者数がふえたためであろう、簡素な椅子となり、一人分のスペースは縮少されていた。それで450席程度ということだった。座席には番号が打っており、書物を請求するときには自分の座席番号を記入した請求票を出すことになっている。ここは館外への貸出しは一切しない。

円型閲覧室の強みは、一つにはカウンターから閲覧室の全体が見渡せることであろう。もう一つは、周囲の壁がすべて参考図書の本棚となっており、そこに約25,000冊の辞書、百科事典、叢書、基本図書のたぐいが並べてあり、この棚のものは図書請求カードに記入することなしに自由に取出して、室内で利用できる。従って私には、この参考図書を見てまわることもまた大きな勉強になった。眠気さましのためにはもってこいの館内散歩でもある。

大英図書館は1836年以来ずっと、9時の開館を守ってきたという。ただし閉館は年とともに変遷をたどり、現在では午後5時、ただし週3日は午後9時である。夏の季節には利用者は海外からもやってくるので、午前9時には入口に20人くらいの人々が、ドアのあくのを待ちかまえているのが普通である。一週間も通うと、この図書館の常連の顔を何人か覚えてしまう。ただしシャイなお国柄か、互いに挨拶をかわしたりはしない。

東京の国会図書館では入口を通過するときに、閲覧室の座席が指定されてしまう。しかし大英図書館では利用者が自分の席を選ぶことができる。従って、自分の気に入った席を確保するには遅くとも9時10分までに入館しなくてはならない。それを過ぎるとよく満席になった。学者が本気で仕事をしようとすれば、毎日坐る場所が変わってはたまらないのが普通であろう。私はH-8という座席をいつしか自分の席と思うようになり、そこを他の人に占められないように頑張った。

9時前から必ず現れる常連の1人に、70歳くらいのおばあさんがいた。容貌も服装も魔女めいた感じを与えた。彼女はいつもI-7に坐る。雨の日には雨水のしたたるコーモリを平気で座席の横にひろげていた。そしてまず新聞から読み始める。どうやら新聞を読まないことには、頭のウォーミング・アップができないかのようなようだった。彼女は午

後4時にさっと姿を消す。何を研究している人か、またどういう名前なのか、最後までわからなかった。

大英図書館では書物の請求票をカウンターに差出すと、係員の手で書物が自分の席に運ばれてくるのに1時間ないし1時間30分はかかる。(こののろさはワシントンの議会図書館でも同様である。)さすがに850万冊、スタックの延べの長さ136キロメートルの中から探すのであるから、この長い待ち時間はやむをえないことであろう。しかし、いったん出してもらった書物は、翌日使用のために、12冊以内ならばリザーヴしてもらうことができる。従って翌日は、紐でたばねられたリザーヴの書物をそっくりカウンターで受取って、すぐに仕事に取掛れるわけである。

16. 17世紀に出版された書物の場合には、しばしば請求票の裏面の「ノース・ライブラリー」の欄にしるしがついて返ってくる。その場合はその請求票と自分のノート類を携え、廊下を通過して北の特別閲覧室に行く。そこは特に貴重な文献を扱う場所だから、監視の目もきびしい。或る日、ギャヴィン・ダグラス英訳の『アエネイス』(1553年刊)を出してもらった。黄色の付箋がついており、かつてジョージ三世の御文庫の1冊だったことがわかった。それを手にする私の胸は動悸打つのであった。研究者にはこうして何一つ、もったいぶることなしに資料を自由に利用させる、この国の文化の伝統の奥深さを実感したのである。

この図書館の特徴の一つはカウンターのぐるりを取巻く約1,400冊のカタログで、今なお「切りはり」システムを固守していることである。どういうわけか、カードの使用を拒否し、スクラップ・ブック方式をよしとしている。英国の友人の一人は、あのカタログのどっしりとした重さが何ともこたえられない、と言う。新しい受入れ本についての書誌的な情報は普通の図書館だと著者名、書名、件名式にカードを仕分け、配列する。大英図書館では著者名A B Cの順にカタログに貼りつけていく。カタログにはいつも余白が残されているが、余白がなくなると新しい頁が追加され、再編される。カードの方が手間がかからなくてすむのに、と思うのだが、なお保守的に頑張っている。その代り、カタログの頁からは文献目録風に一目で同類のものを見渡せる便利さはある。

落ちついて本当に仕事のできる図書館として、恐らくこの大英図書館以上の場所は望めないであろうと、今でも思うのである。(文学部教授)

## 相互協力について

文献複写 依頼・受付タイトル数  
(1981. 郵送のみ)

	依頼 タイトル	受付 タイトル	複写枚数
国立大	76	225	9,523 枚
公立大	19	30	
私立大	102	437	
短大	0	3	
公立	1	27	
私立			
国会図書館	38		
その他	11	16	
合計	247	738	

### <その必要性>

同志社大学には、全体で凡そ100万冊の本が所蔵されている。すぐ隣の京都大学には、図書館を中心に、25を超える研究所、学部図書室が展開し、合せて370万冊以上もの図書と、2万5千種にも及ぶ雑誌が所蔵されているという。それでは、国会図書館ともなれば、どれくらい文献を抱えることになるのか。さる資料によれば、「和洋合せて8,247,900冊の図書と29,399種の雑誌、それに75,628リールのマイクロフィルムを所蔵」(1979年)と記されていた。

相互協力の必要性については、今さら論をまたないが、研究領域の急速な拡大と学問の発展、そして、たゆみない科学技術の進歩は、資料、刊行物の洪水化現象とさえ云えそうな、量的増大を招いてきた。

反面、こうした状況に応える図書館の事情は、甚だ心もとない。図書費の不足、それに対応能力の限界もあろう。今後は、否応なく重複購入の見直しに始まり、ひいては、分担収集・保存の必要が、より一層叫ばれる

るにちがいない。身近には、阪神地区の諸大学でその努力が既になされている。

もはや今日の状況は、一館ですべてに対応することなど困難であり、経済性から云っても、合理性から云っても、他館との相互協力の上に図書館機能を発揮させる時期にきていると思える。

### <複写業務からみた本学の状況>

図書館間の相互利用はさまざまな形で行なわれているが、何と云っても広く、活発に行なわれているのが文献複写である。大学間全体では、年に50万件近い依頼、受付が行われ、年々増加の一途と聞く。

それでは、本学の状況はどのようなものか。別表は昨年度の依頼、受付件数であるが、この数値は、4年前の3倍を超えている。

活発な利用を阻むものに、利用方法のPR不足や、料金問題もさることながら、依頼してから手に入れるまでの時間の長さが指摘されてきた。国公立大学の場合、会計規則がその障害となって、一カ月近くもかかるのは通例であり、どうしたかか時に半年を要した例さえある。学術情報システムが完成した時、こうした点も、いずれ機械化によって克服もされようが、料金の後納制と振込方法がせめて可能となるよう望みたい。ファクシミリの導入によって、それこそインスタントに複写物が手に入る「時代」となっているのだから。

国会図書館や府立中之島図書館からは文献の借出も可能である。所在さえつかめば、全国どここの図書館からでも複写文献を取りよせることができる。利用相談は気安くメイン・カウンターで行なっています。

## 各国文学について

今回は全国各地域の文学（日・英・米を除く）に関する単行書をひろってみました。文学というジャンルがその国、その地域で確立している場合もあれば、未だ文化の中のほんの一隅を占めるにすぎない場合もあります。それと同時に我国での受容の歴史と現状によっても資料の質量に大きな差異があります。館蔵の邦文・邦訳文献を中心に紹介しますが、以前、この欄で紹介したものは割愛します。それらは「英語・英文学」（第25回1980年10月）「世界史上・下」（第26、27回1981年4、10月）などを中心に可成りの点数を紹介してありますので他の号を十二分に参照して下さい。

戦後文献に限って中国、ドイツ、フランスについて詳細なものを手にすることが出来ます(1)(3)(4)。これらの文学については原則として、それ以後に刊行された最小限のものをあげるにとどめます。主要な全集や双書・研究書については収集しているのでカード目録を検索してアプローチして下さい。尚、東欧・ソヴィエト篇も近刊とのことです。  
〔◎は旧分類 ⑤は参考図書室所蔵 無印は新分類一般図書〕

### 〔I〕 文学のみを取扱ったもの

#### 1. 中国文学研究文献要覧 1945—1977（戦後篇）

吉田誠夫、高野由紀夫、桜田芳樹編 日外アソシエーツ 1979（20世紀文献要覧大系9、外国文学研究文献要覧Ⅱ）〔◎028.9;G〕

戦後32年間（1945.8—77.12）、日本で発表された研究文献（図書、雑誌・紀要論文）12,074点、中文の基本図書・工具書（参考図書）約250点、合計約12,300点を集成したもの。

第1部 研究文献の利用案内

第2部 文献目録（文学一般と時代順ジャンル別の二部編集）

第3部 索引（事項、人名、作品名・書名、著者名）

それと収録（雑）誌名（1,250点）からなる。

文献情報の探索と同時に学問の進歩ありようを具体的に把握できるよう意図して編集。

#### 2. 現代中国文学研究文献目録 1919—1945

飯田吉郎編 中国文化研究会 1959〔◎028.92;I〕  
〈文学革命〉誕生前後より〈終戦〉に至る期間の資料（1,741点）を発行年月順に配列。

著者索引（Ⅰ日本人 Ⅱ中国人・朝鮮人 Ⅲ欧米人の別）あり。

#### 3. ドイツ文学研究文献要覧 1945—1977（戦後編）

森本浩介編 日外アソシエーツ 1979（20世紀文献要覧大系4、外国文学研究文献要覧Ⅲ）〔◎028.9;G〕

戦後（1945.8—1977.12）我国で発表された研究文献（図書ならびに雑誌論文）約11,700点、基本欧文図書約300点あわせて約12,000点の文献リスト。

#### 第1部 「研究文献の利用案内」（岡本英太郎）

基本的な知識を得る者を対象として作成しているが、卒業論文作成の手引き等にも十分利用出来るようにも配慮してある。

#### 第2部 文献目録

作品の単なる翻訳は研究上貴重なもの以外除かれている。その他、学習参考書、文学全集の解説等も原則的に除いている。

ドイツ文学一般、東ドイツの文学、スイス・オーストリアの文学、作家・作品論に大別している。

#### 第3部 索引

事項、作家名（和文）、作品名・書名（邦題・原題別）著者名の各索引により構成。

#### 4. フランス文学研究文献要覧 1945—1978（戦後編）

杉捷夫他編 日外アソシエーツ 5冊 1981—82（20世紀文献要覧大系11、外国文学研究文献要覧Ⅳ）〔◎028.9;G〕

日本国内外を問わず日本人によって発表された研究論文が中心ではあるが、エッセー、紹介記事、近況ニュースなども収録。

外国人による文献は日本国内で発表されたものと邦訳されたものにとり限り収録。総計約45,000件。

第1巻 総記 フランス文学一般と世紀別とに区分一般の部分はジャンルに細分。

第2—4巻 作家・作品 各作家を原綴により配列図書、雑誌、書誌の項に分けて掲げ、さらに「作品論」や原綴による「作品名」の見出しも一定ルールのもとに設けて、それぞれの下に文献をあつめている。

第5巻 索引

戦後34年間の文献だけで5分冊になっていることからわかる様に断簡零墨迄収集、分出も入念に行われている。

## 〔Ⅱ〕 一部分に文学関係の含まれているもの

### 5. 韓国学に関する文献目録

—筑波大学図書館所蔵分—

筑波大学編集発行 1981(昭和55年筑波大学学内プロジェクト東アジア研究報告書Ⅰ)〔整理中〕  
文学の項は15—23頁。

### 6. 国立国会図書館所蔵 朝鮮関係資料目録 4冊 同館編集発行 1966—75 〔025.21;K2〕

1. 日本文篇 2. 欧文篇 3. 朝鮮文篇 4. 朝鮮本篇  
日本文篇は昭和40年7月迄に整理された図書約2000タイトル 地図約2000点の目録。  
文学としては約100タイトル収録されている。

### 7. チベット研究文献目録 日本文・中国文篇 1877—1977 貞兼綾子編 亜細亜大学アジア研究所 1982 〔整理中〕

著書と雑誌論文7,618点。文学の項には10数点収録されている。

### 8. アフガニスタン文献目録稿

堀込静香編 日木アフガニスタン協会 1980 〔028.226;H〕  
和文分類目録(1878—1979)と欧文分類目録(1815—1979)の二部構成。  
索引は和文文献題名,同著者名,欧文文献題名,同著者名の4つ。  
文学としての独立した項目はあげられていない。

### 9. ソ連東欧研究文献目録 1979

松田潤編 北海道大学スラブ研究センター 1981 〔028.238;M〕  
1979年にわが国で刊行されたソ連・東欧研究と関連分野の単行書および雑誌論文と記事を収録(約1,500点)。文学の項に約250点。著者名索引あり。1978年版も所蔵。

### 10. 東欧関係邦語文献目録

東欧史研究会編 津田塾大学国際問題研究所 1981 〔整理中〕  
1980年1月1日迄に著わされたものを収録。  
第1部 単行本

第2部 論文(ただし新聞を除く)

第3部 日本外交史料館東欧関係文書一覧  
からなる。第1,2部はさらに可能な限り,国別の項をたてており,文学関係資料も散見する。

## 〔Ⅲ〕 文庫目録

### 11. 東京大学東洋文化研究所蔵 雙紅堂文庫分類目録

長沢規矩也編 東洋文化研究所 1961 〔016.822;N〕  
長沢規矩也旧蔵 明・清時代の戯曲小説書560余部3,150余冊の目録。

### 12. 四方朝鮮文庫目録

同文庫運営委員会編集発行 1978 〔028.221;S〕  
故四方博蒐集の朝鮮関係書籍約4000点に上記委員会  
が追加購入した書籍の目録。  
文学の項は75—80頁。

### 13. 京都大学文学部ドイツ語学ドイツ文学研究室 大山文庫目録

同学部図書室編集発行 1981 〔028.94;O〕  
独文学の巨匠 故大山定一旧蔵の洋書1,451冊を,  
A文学・哲学 B語学・辞典 C芸術 Dその他 E  
雑誌の項に大別し,索引を付した目録。

### 14. 武蔵大学附属図書館所蔵 水野文庫目録(バルザック関係蔵書) 同館編集発行 1981 〔028.95;M〕

著名なバルザックンであった故水野亮旧蔵の洋書(1,152点)和書(207点)合計1,359点の目録。  
バルザックの作品・評伝・研究等に大別さらに内容  
の主たる意味によって細分類して構成。  
バルザックを除く著者名(欧文)索引あり。

## 〔Ⅳ〕 個人に関するもの

### 15. 中国文化関係文献目録

アジア・アフリカ総合研究組織編 アジア経済研究所 1968 (アジア・アフリカ文献解題2) 〔028.222;A〕  
荒井健「魯迅文学の研究」が収録されており,20年間に発表された研究文献23篇に解題を付し,さらに181篇を年代順に配列しており,魯迅研究の足跡を概観出来る。

### 16. 薄明の文学 中国のリアリズム作家茅盾

松井博光著 東方書店 1979 〔920.28L;Bm〕

巻末に「邦訳された茅盾の主要著作」と略年譜がある。

17. タゴール 生誕百年記念論文集

タゴール記念会編 1961 〔@829.5;T3〕

巻末に年譜(山室静・大類純編)45頁。

文献目録(Iベンガール語版 II英語版 III日本におけるタゴール文献目録)37頁。

18. ルー・ザロメ著作集 別巻

以文社 1974〔948;A2〕

本別巻はマキーンによるルー・ザロメの伝記的研究であるが、巻末に年譜(伊藤行雄編)がある。

19. ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ——作品と参考文献

京都外国語大学附属図書館編集発行 1981  
〔940.28F;GK6-2〕

「ゲーテ文献目録」(昭和47年同館刊)の昭和55年9月現在での改訂増補版。1,256点収録。索引は著者別・書名別。

20. フリードリヒ・フォン・シラー——作品と参考文献

京都外国語大学附属図書館編集発行 1979  
〔940.28G;Ss7〕

892点収録。著者索引あり。

21. アンナ・セーガースの文学世界

道家忠道他 三修社 1982〔整理中〕

現代独文学の巨匠であるアンナ・セーガースの邦訳リストと年譜とがある。

22. 手塚富雄著作集 第8巻

中央公論社 1981〔940.8;T〕

巻末に著者(独文学者)の年譜と主要著作年表がある。

23. 桑原武夫集 第10巻

岩波書店 1981〔908;K-2〕

巻末にフランス文学研究から出発した著者の全著作目録(48頁)略年譜(13頁)がある。

24. フェデリコ・ガルシア・ロルカ 1931-1936

牧神社 1975〔968;G-2〕

文献として

- I 海外篇 1. スペイン語著作
2. 英・仏・独語翻訳著作

3. 西・英・仏語参考文献

- II 日本篇 1. 日本語翻訳著作
2. 日本語参考文献

全3巻の各巻にあつかった時代の年譜(1917-36)がある。

25. 日本におけるドン・キホーテ文献 (1)(2)

辻井正衛 天理大学学報抜刷 1969〔960.28B;Ct〕

I 翻訳(合抄訳・対訳・翻案等)

II 研究・紹介・評論・その他の別で各編年体。

26. トルストイ全集 別巻 トルストイ研究

法橋和彦編 河出書房新社 1978〔983;T-6〕

編者の手で年譜(約40頁)並びに文献目録(ロシア・ソヴェートの部と(日本の部)を作成。日本の部は翻訳・著書・論文・エッセーを年代順(1886-1978)に配列。

27. ドストエフスキー全集 別巻

ドストエフスキー研究

唐木順三編 筑摩書房 1964〔983;D-6〕

第4部に松井茂雄編の年譜(17頁)と研究書目(国内文献50点, 翻訳文献・伝記59点, 雑誌・紀要論文81点, 特集号5点——1963年頃迄に刊行されたもの)がある。

28. ドストエフスキー全集 別巻

ドストエフスキー研究

米川正夫 河出書房新社 1970〔983;D-7〕

米川正夫個人訳全集の別巻で訳者の手になる研究。

付録I ドストエフスキー年譜

“ 文献

付録II 米川正夫 略年譜・翻訳年表

29. 決定版 ドストエフスキー全集 別巻

年譜(伝記, 日付と資料)

L・グロスマン 松浦健三訳編 新潮社 1980

〔983;D-14〕

原著「F・M・ドストエフスキーの生活と作品。(副題)伝記, 日付と資料」を骨子として訳者が多くの文献を駆使して編集した549頁に及ぶ年譜。祖先(1506年)の代から没後(1978年)迄あつかわれている。

30. ほくのポーランド文学

「連帯」の革命を生み出す精神について語る

工藤幸雄著 現代企画室 1981〔989.8;K2〕

工藤幸雄著作・翻訳目録あり。

〔V〕 案内書その他

31. 敦煌の文学

金岡照光著 大蔵出版 1971〔920.2;K5〕  
文献は本文の各章に対し、入手しやすく基礎的なものだけ列挙されている。

32. アラブ文学史 西欧との相関

関根謙司著 六興出版 1979〔929.76;S〕  
年表と参考文献あり。

33. イスラム事典

平凡社〔整理中〕  
参考文献案内の文化の項に少し含まれている。

34. 近代ウルドゥ文学史研究

アブル・ライス・スィッディーキー著 加賀谷寛  
編訳 東海大学出版会 1979〔929.8;S3〕  
片山弘次作成の年表(1857年—1977年)あり。

35. ベルシアの詩人たち

黒柳恒男著 東京新聞出版局 1980(オリエント  
選書2)〔929.9;K-2〕  
巻末に参考文献あり。

36. ドイツ文学案内

岡田朝雄・岡田珠子著 朝日出版社 1979(世界  
文学シリーズ)〔940;O-2〕  
作家解説I(37人)作家解説II(142人)重要作品  
(55篇)文学史表覧(解説と図表)で構成。  
作家解説I・IIでとりあげられたものを中心とした  
翻訳文献一覧がある。索引は欧文(作品・人名)和文  
(作品・人名)。格好の案内書。

37. フランス文学案内

篠沢秀夫著 朝日出版社 1980(世界文学シリー  
ズ)〔整理中〕  
89のドイツ篇と取り上げる作家・作品数は若干異なるが、同一の考えのもとに編集したもの。

38. 北欧文学史

フレデリック・デュラン著 白水社 1976(文庫  
クセジュ)〔949.4;D〕  
本文で言及されている作家の作品で、その時点で入手可能な「北欧文学邦語作品目録」(作品集8点、個別作品32点、研究文献5点)がある。

39. ロシア文学案内

中村喜和著 朝日出版社 1977(世界文学シリー  
ズ)〔980.3;N〕  
89(87)で紹介したものと同一の編集方針が貫徹されて

おり構成もほぼ同じ。

40. ソ連の地下文学

川崎渕著 朝日新聞社 1976(朝日選書)  
〔980.2;K15〕  
巻末に参考文献あり。

41. アフリカ文学の世界

アフリカ文学における抗議と闘争  
コズモ・ピーターサ、ドナルド・マンロ編 南雲堂  
1975〔990;P2〕  
巻末に 小林信次郎・絹笠清二「アフリカ文学作品  
の文献案内」があり、約170点紹介されている。

42. 現代アフリカの文学

N・ゴードイマ著 岩波書店 1975(岩波新書)  
アフリカ人作家・人名録があり、30余人が紹介されて  
いる。

43. 新しいアフリカの文学

A・ノルトマン=ザイラー著 白水社 1978(文  
庫クセジュ)〔990;N〕  
巻末にアフリカ文学邦訳作品目録(その時点で入手  
可能なものに限る)あり。  
「文庫クセジュ」は各巻に少しではあるが参考文献  
が付されていることが多く、訳者による邦文関係のも  
も加えられていたりして有用。

44. ギリシャ文学史〔改訂新版〕

フェルナン・ロベール著 白水社 1975(文庫ク  
セジュ)〔991;R2〕  
文献一覧あり。

45. 中国文学の女性像

石川忠久編 汲古書院 1982〔整理中〕  
中国文学に於ける「女性」をテーマとした集体研究  
の成果。  
巻末に杉尾武「類書に見える美女伝資料一覧」並に  
佐伯慶子訳・補注「丁玲作品年譜(1904年10月—1980  
年3月)」(原題「丁玲作品系年」吉林師範大学報  
1980年増刊、中忱・凌源編 吉林師範大学学報編輯部  
出版)がある。

46. 近代中国文学運動の研究

秋吉久紀夫著 九州大学出版会 1979  
〔920.27;A-3〕  
この期の文学を文学運動の視点から追求するもの。  
巻末の関係年表(1915—1966)と参考文献は貴重。

〔VI〕 事典・年表

いろいろなものが出ているが数点だけ挙げておく



47. 研究社世界文学辞典

齊藤勇主幹 研究社 1954 〔㊦903.3;K3〕  
本文に年表・索引合せて約1,500頁。西洋文学にかたよらないよう編集上留意しており、今なお有用なもの。索引は欧文・中文・和文。

48. 新潮世界文学小辞典

伊藤整他編 新潮社 1966 〔㊦903.3;S2〕  
第一部(人名および主要な作者不詳作品)  
第二部(各国文学史・流派・様式・研究法)  
それに年表がついて約1,270頁。  
索引は和文人名, 欧文人名, 書名作品名, 事項, 新聞・雑誌の部に分けられている。(約250頁)  
小辞典とタイトルについているが, 質量とも豊富。

49. 解説世界文学史年表

市古貞次外編 中央公論社 1957 〔㊦903.2;K〕  
紀元前2500年から1955年までを87に区分, それぞれを解説と年表で構成。詳細な索引もついて900頁に近い大冊。

50. 年表 世界の文学

小島輝正編 創元社 1972 〔㊦903.2;K2〕  
コンパクトなものであるが, 作者3000を収録。各作品は, 邦文で国名・著者名・書名, 次に原著名, ジャンル。邦訳があるものについて, 出版社・出版年が記されていて便利。各頁下段の事項解説も簡潔で有用。

51. 世界幻想作家事典

荒俣宏 図書刊行会 1979 〔㊦903.3;S8〕

52. 中国学芸大事典

近藤春雄著 大修館 1978 〔㊦920.3;C4〕  
本文871頁, 約11,500項目を収録。  
現代に関する部分は1950年の「解放」までのものに重点がおかれている。  
各項目に参考文献を多く付す編集方針。  
付録として中国学芸年表と中国主要叢書内容一覧, 中国年号索引, 日本年号索引, それに見出し項目を第一字目の字画によって分類配列した総画索引がついている。  
なお, 古典的な労作として, 近藤奎「支那学芸大辞彙」立命館出版部 1936 〔㊦820.3;K〕——改題訂補版「中国学芸大辞典」東京元々社 1958年〔㊦920.3;C〕——がある。

53. 中国文学専門家事典

日外アソシエーツ編集発行 1980 〔㊦920.3;C5〕  
1945年8月から1977年12月までの32年間に中国文学に関する研究文献を発表している専門家(含物故者)

555人について姓・名の50音順のもとに業績をあつめている。

54. ドイツ文学辞典

日本独文学会編 河出書房 1956 〔940.3;D3〕  
日本ではじめてといわれる本格的なドイツ文学辞典。詩人・作家本位に編集。本文1000余頁。重要事項に関する邦文と欧文との索引がある。

55. フランス文学辞典

新庄嘉章・根津憲三編 東京堂 1972 〔㊦950.3;F〕  
一般読者を対象に作家・作品・事項をよりよく理解・鑑賞出来る様作られた小項目方式の辞典。

56. フランス文学辞典

日本フランス語フランス文学会編 白水社 1974 〔㊦950.3;F2〕  
項目総数3000という日本語による最初の本格的な辞典。  
1973年迄の年表と和文・欧文索引がついている。

57. 現代フランス文学作家作品事典

佐藤朔他編 講談社 1981 (講談社学術文庫)  
〔整理中〕  
現代の代表的作家(70余名)の伝記と作品の梗概からなる。巻末に現代フランス文学年表(1891—1975)と邦訳書及び主要参考文献要覧がある。  
複雑・多様化して難解な現代仏文学を読み進む上で  
の好個の指針書。

〔VII〕 内容総覧

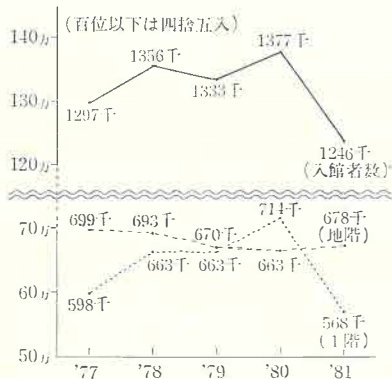
58. 西洋文学個人集作品目録 1956—1979

東京都目黒区立守屋図書館編集発行 1980 〔㊦028.9;T-2〕  
国立国会図書館編「明治・大正・昭和翻訳文学目録」〔㊦028.9;K〕及び東京都目黒区立守屋図書館編「西洋文学全集翻訳目録1956—1976」I・II〔㊦028.9;T〕を受けて昭和30年以降出版された個人全集の作品分付を行ったもの。継続刊行中のものは昭和54年12月までのものを収録。  
収録全集一覧(出版社の50音順)と収録著者一覧(50音順)がある。  
作者名がわかっているならば, 求める作品(邦訳名)が著作集に含まれているか否かを調べることが出来る。  
(1巻全集・作品集もとりあげられている)

この外, 明治初期の翻訳文学関係のものとしては「明治文化全集」〔210.6;M5〕第22巻翻訳文学篇や「明治文学全集」〔918.6;M〕第7巻明治翻訳文学集の文献等が手頃である。

# 図書館利用状況推移 —最近5年間の利用統計より—

表1. 入館(室)者数



日数	266	267	269	270	269
1階	251	260	255	264	250

表2. 館外貸出冊数

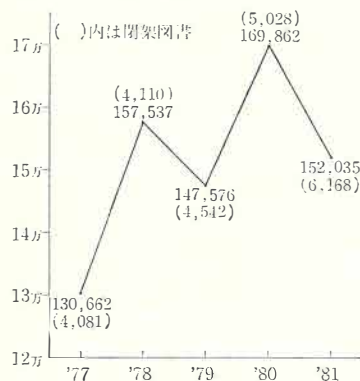


表3. 開架図書分類別館外貸出冊数Best10 —'81年度及び( )内'74年度—

順位	分類	貸出冊数
1(3)	320 法律	17,778(10,722)
2(2)	330 経済	12,504(11,112)
3(4)	540 電気	11,801(6,381)
4(5)	360 社会学	7,749(5,054)
5(1)	910 日本文学	7,495(11,263)
6(7)	430 化学	6,777(3,124)
7(6)	930 英米文学	6,391(4,408)
8(3)	410 数学	5,205(2,260)
9(4)	370 教育	3,933(2,853)
10(4)	420 物理	3,881(2,124)
【付】	経済学部文庫	8,500(4,731)

☆入館者数：1階入室者（メインカウンター、目録コーナー、開架・雑誌参考図書各室及2階閲覧・AV各室等利用者）と地階入室者（新聞コーナー及閲覧各室利用者）の合計（表1）

地階入室者数はこの5年間の推移では漸減の傾向を見せつつも、ほぼ横ばいで安定している。1階入室者数についてはかなりの変動がある。特に'80年度にはピークを形成し、初めて地階入室者数を上回っている。これは学年末試験期が全科目レポート制であった為、1階の図書資料に利用者が殺到して超異常な状況であった事によるものであり、その反動もあってか、翌'81年度はこの5年間で最低の所まで落ち込んでいる。更に近況を述べると、今月3月初旬にブック・ディテクション・システムを1階出入口に設置した事により、或いは今年度より土曜午後1・2階開室（開室時間拡大）となった事もあり、5月以降1階入室者数が急増し、反対に地階入室者数が減少して、1階入室者数が地階入室者数を上回るようになってきている。又その為に1階の図書資料、目録コーナー、メインカウンター等の利用も一段と活発化して来ている状況にある。

なお、学習図書館としての性格上、利用者のほとんどは学生であり、教職員他による利用は極めて僅かである。

☆館外貸出冊数（表2・3）

'78年度と'80年度に各ピークを形成している。これは学年末試験が、'78年度は第1部学生の大部分の科目について、又'80年度は全科目に渡って、レポート制であった事によるものである。

とりわけ、'80年度学年末試験期'81年1月には、館外貸出冊数40,247冊（内・開架466冊）を記録している。又、このときの開架図書の貸出状況は、最初の4日間については一日平均456冊だけであったが、後17日間の一日平均は約2,230冊もの多数に上り、最多貸出日1月19日には3,245冊を貸出している。過去の最多貸出日'79年1月18日の1,976冊と比べると驚異的な貸出冊数であった。当時、午前中は平常時並、午後より館内は繁華街の如くなり、カウンターも繁忙の限りを極め尽くした感があった事は忘れる事が出来ない。又'80年度の館外貸出冊数は、新館移転翌年'74年度に比べると約5割増、旧館'72年度に比べると2.4倍になり、新館開館以来の利用の伸びは著しい。

開架図書館外貸出冊数（表2( )内）については、'74~'78年度は毎年4千冊前後で推移していたものだが、開架の新分類図書の蔵書冊数が開架の2倍になるに及んで、この数年の間に約5割の増加となっている。

開架図書'81年度分類別館外貸出冊数 Best 10 と( )内の'74年度に於ける順位及び貸出冊数（表3）を比較してみると、新館開館以来この8年の間に、貸出される本の内訳は大きく変化して来た事がよく分かる。授業と密接に関連した分野の伸長が著しい。一方、“日本文学”の凋落が目立つ。かつては、『松本清張全集』等、貸出抜群の本があった事などが思い起こされる。この'81年度開架分類別 Best 10 の館外貸出冊数だけで'81年度全館外貸出冊数の55%を占めている。

開架蔵書構成も、分類別の蔵書回転率（貸出冊数÷蔵書冊数）を参考にしながら、回転率の高い分野の蔵書冊数を増加・充実させ、反対に回転率の低い分野は減らして閉架書庫に移動するなどして、年々調整をし、大きく変化して来た。その結果、回転率の高い分野の貸出冊数は増々増加し、一方、蔵書冊数の減少した分野は貸出冊数も減少するという事になったりもしている。

開架5万冊構想が、学習図書館としての適正最大規模或いは管理運営上での限度とされて新館に実現され、本図書館も当初は広大に思えたものであるが、'73年12月開館以来早や9年近く経過して、今では利用の大巾な増大に伴い、又最近では他大学図書館に開架十数万冊或いは全書架開架何十万冊を実現する所も出て来ている事をも思うにつけ、つくづく狭隘さを感じさせられる。

表4. 館内貸出冊数（出納請求による）

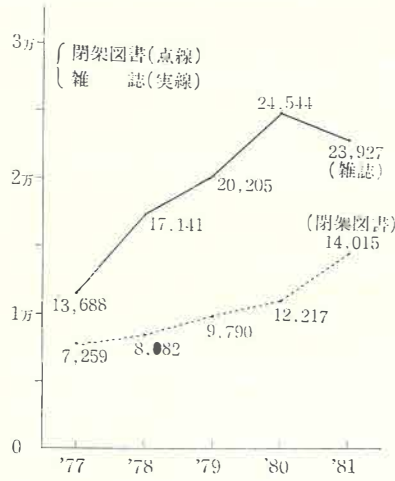


表5. 文献複写枚数

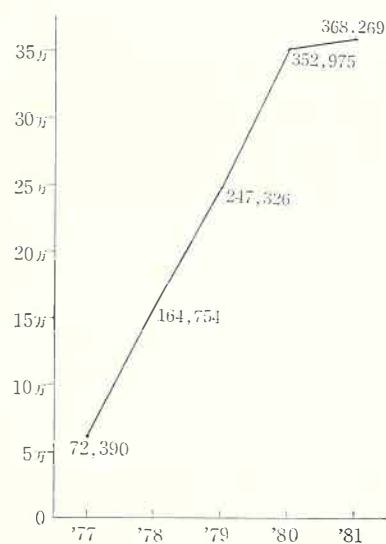


表6. レファレンスサービス

'77	'78	'79	'80	'81
169件	65件	73件	107件	86件

表7. AV室・オーディオ室利用

年度	開室日数	人数
'77	146	3,143
'78	153	3,114
'79	151	3,241
'80	156	3,466
'81	158	3,969

☆閉架図書館内貸出冊数（表4）

閉架図書の蔵書冊数は、現在、新分類図書が約10万冊、旧分類図書がほぼ20万冊近くあり、合計30万冊程度ある。

旧分類図書の出納による館内貸出冊数は'74年度には6,189冊であったが、その後減少し、'76~'81年度は3千冊台を維持している。

一方、閉架の新分類図書は、蔵書冊数が年々増加するにつれ、その利用も毎年一貫して増加して来た。'74年度の新分類図書の出納冊数は2,353冊であったが、'77年度には3,650冊となり、旧分類の3,609冊を初めて上回り、'81年度は10,411冊となり、旧分類3,604冊の約3倍近くを館内貸出するまでに至っている。特にこの数年間の利用の伸びは著しい。閉架でかなり利用されていた本も最近では閉架にかなり移動して来ている為もあるが、又昨年度より、開講時ほぼ毎月第1・3水曜日などに閉架書庫見学案内を始めた事も効果があるように思われる。ともかくこの5年間で、閉架図書の利用は約2倍近く増えて来ている訳である。'81年度の閉架新分類図書の分類別館内貸出冊数上位記録を列挙してみると、①日本文学(⑨910)1,495冊②日本史(⑨210)982冊③法律(⑨320)839冊④伝記(⑨280)618冊⑤統計(⑨350)578冊⑥経済(⑨330)551冊⑦教育(⑨370)345冊⑧政治(⑨310)331冊⑨東洋思想(⑨120)294冊⑩社会学(⑨360)270冊⑪民俗学(⑨380)269冊などである。これらを前年度('80年度)と比較してみると、“法律”、“統計”、“経済”は減少しているが、“伝記”、“教育”、“社会学”は約2倍前後も増えている。“日本文学”の蔵書には全集物が多く、閉架の蔵書量も最も多い事などから、断然閉架の利用は多い。“法律”の閉架利用の大半は判例・法令集の類のようだ。“伝記”は、その資料的価値の故に重点的に収集されている為、閉架の蔵書も多く、又'81年度から“個人伝記”(⑨289)を全部閉架に収蔵する事になった為、閉架利用が急増する結果となった。“経済”の閉架での蔵書も“日本文学”と同じ位に多いので、もっと利用があつて然るべきであろう。

☆雑誌利用冊数（表4）

雑誌利用もこの5年間で急伸している。ピークの'80年度は、'74年度9,019冊の約2.7倍にもなっている。法律関係の雑誌と新聞の利用だけで概ね半分近くを占めているものと推測される。なお、現在受入継続中の雑誌は1,200~300タイトルであり、その内約3分の1の約400タイトルの新刊誌については雑誌参考図書室に展示されているが、この新刊展示雑誌の利用については統計数字に計上されていない。

☆文献複写枚数（表5）

'78年度にはコイン式ゼロックス複写機を設置し、セルフ・サービス方式に変更した為、前年度に比べ倍増し、更に'80年度中途より複写機をもう1台増設しており、この5年間で複写枚数は5倍増の急増となっている。複写料金も、以前1枚30円であったのを、'79年度より20円に値下げしている。現在、複写機の増設が課題となっている。

☆レファレンス・サービス（表6）

表6の件数は、一日何十件もの参考質問のある中で、主としてその質問内容により調査に時間を要し後刻回答したものなどに限られていて、カウンター等で係員が助言・即答したものは含んでいない。'77年度をピークとして'78年度には極度に減少しているが、これはレファレンスカウンターの担当時間が減少したことなど種々の原因が重なったためである。

☆AV室・オーディオ室利用（表7）

最近、オーディオ各室の利用もやや活発化して来ている。新館開館以来収集されてきたレコードの枚数もおよそ3,000枚にも及び、クラシック部門に限れば、ほぼ当初目標とした収集が達せられたと思われる。しかし、利用面では、一時期購入されたニュー・ミュージックに集中しており、問題を残している。

又、AV機器の旧式化もあり、相当の年数を経て、このところ故障も目立ち初め、暫時買い替えて行く必要がありそうである。

なお、今年4月より、新しくマイクロ・リーダー・プリンターが購入・設置された。広い利用が待たれている。

さて、以上の他に、他館との相互利用に関する統計などもあるが、紙面の都合上、省略する。

## 実例を中心とした

# 資料のさがし方 —22—

今回は1982年7月までに受付けた質問から、人名、法律、雑誌論文、外国の大学などに関する質問9例を紹介いたします。

### 〔質問例 1〕

15年戦争（1931～1945）の期間中に八路軍（など中国軍）に従軍した日本人の書いた手記を読みたいのですが、日本人の書いたものがなければ中国人が書いた記録でもかまいません。

### <回答>

太平洋戦争にかかわりをもった将兵、軍属、報道関係者、非戦闘員等の体験に基づく記録類を集めて解説した資料として「太平洋戦史文献解題」（028.391; I 参考室）がありますが、残念ながら「日中戦争」に関しては資料が収録されていません。それで「近代中国・日中関係図書目録」（028.222; K 7 参考室）、「国立国会図書館蔵書目録」、「大阪府立図書館蔵書目録」、「全日本出版物総目録」で調べてみたところ次の2点の図書が見つかりました。「中共軍と行く——特殊工作員の手記——」富岡建次著 リスナー社 1949、「一日本人の八路軍従軍物語」古山秀男著、日中出版 1974。両書とも同志社では所蔵していませんが国立国会図書館で所蔵していますので貸出を希望される場合はメイン・カウンターへ申込んで下さい。なお「一日本人の八路軍従軍物語」は現在でも発売されており定価は880円です。

### 〔質問例 2〕

西ドイツのザールランドス大学のドイツ文学関係の教員の氏名が知りたい。

### <回答>

世界の大学の所在地や大学の内容について調べる資料として「International handbook of universities. 8th ed.」（377; I 7—1a）と「The World of learning, 1980—81」（370.6; W）とがあります。「International handbook of universities」は学校案内が主で、学部学生数、開講期間、図書館の蔵書数などがのっていますが教員氏名はのっていません。「The World of learning」には学校案内のようなものはのっていませんが、各学部の教員氏名と専門分野がのっていますのでこれを利用出来ます。この資料の Federal Republic of Germany の universities の項目を見て下さい。584ページに Universität des Saarlandes がのっています。この項目でドイツ文学関係の教員を調べると次の人々が掲載されています。いずれも Faculty of Philosophy の所属です。Banuls, A. (Modern German literary criticism), Haubrichs, W. (Medieval German literature), Lichtenberger, S. (German literature), Roth, M.-L. (Modern German literature), Souder, G. (Modern German philology and literature)

### 〔質問例 3〕

Thomas Blake Glover の生年が知りたい。長崎でグラバー商会を設立したイギリス人です。

### <回答>

人名を調べる資料としてすぐ思いつくものに人名事典があります。この質問の場合も人名事典でわかりました。「大人名事典」、「世界人名事典」、「岩波西洋人名事典」には Glover は掲載されていませんでしたが、「幕末維新人名辞典」（281.03; B 3）には掲載されており、これによると Thomas Blake Glover 1838年（天保9年）6月6日生れとなっています。人名事典の他に「百科事典」も人名を調べる資料として利用出来ますのでこれらでも調べてみました。「ジャポニカ」、「世界大百科事典」にはのっていませんでしたが「ブリタニカ II: 2」（031; B）にはのっていました。又長崎に関係ある人物ですので「長崎本南蛮紅毛事典」（219.3; N 4 参考室）、「新長崎年表」（219.3; S 3 参考室）にも記載がありました。生年月日の他にスコットランド、アバディーン市生れという記述があります。

### 〔質問例 4〕

消費生活協同組合法施行規則、消費生活協同組合の剰余金割りもどしに関する省令、消費生活協同組合資金の貸付に関する法律、以上3つの法令が見たい。

### <回答>

法律を調べる資料としては、まず第一に六法全書を思いつくと思います。六法全書で調べると「消費生活協同組合

法”がのっているのがわかります。しかし消費生活協同組合法そのものはのっていますが、施行規則などは関係法令として法令名が紹介されているだけで条文はのっていません。六法全書では掲載されていなかったのので、次に「現行法規総覧」で調査しました。「現行法規総覧」は現行法令を法体系別に分類・編さんしたもので、加除式で発行され最新の法令が収録されるようになっていきます。この資料の現行法令五十音索引でさがすと、第27巻厚生2の2757ページ以後に「消費生活協同組合法施行規則」、消費生活協同組合の剰余金割りもどしに関する法令、消費生活協同組合資金の貸付に関する法律”がのっているのがわかります。「現行法規総覧」は参考室の加除式図書の本棚にあります。

〔質問例 5〕

10月18日に設定されている「統計の日」について、その由来、実施されているイベントなどについて記載されている本が見たい。又なぜ10月18日に決定したのかが知りたい。

<回答>

参考室にある「統計制度と統計調査」(351;T4)に記載があります。これによると「統計の重要性に対する国民一般の関心と理解を深め、統計調査に対する国民のより一層の協力を推進するため「統計の日」を設ける。「統計の日」は毎年10月18日とし、この日を中心として統計功労者の表彰、講演会、展示会の開催など統計知識の普及のための行事を全国的に実施するものとする……なお、関係諸機関が諸行事を行うためには10月の後半が適当な時期であるので、府県物産表に関する太政官布告が公布された明治3年9月24日を太陽暦に換算した日、すなわち10月18日を「統計の日」とするものである」という記述があります。

〔質問例 6〕

二条城の建築、障壁画、庭園などについてくわしく書かれているもの、図録のようなものはありませんか。「図録元離宮二条城」(平凡社 1974)があれば良いのですが。

<回答>

目録で「図録元離宮二条城」をさがしてみましたが同志社では所蔵していませんでした。図書館には二条城について1冊にまとめられた資料はありませんでしたので、次の資料をそれぞれ参考にして下さい。「日本の庭園 5巻：宮廷の庭 大名の庭」(629.1;N3開架)、「日本の美術 12巻：城と書院, 13巻：障屏画」(702.1;4開架)、「原色日本の美術 12巻：城と書院, 13巻：障屏画」(702.1;G開架)、「日本庭園史大系 9巻」(629.21;N開架)、「日本城郭大系 11巻」(521.82;N3開架)。

又参考室にある「京都府資料所在目録」(025.16;K)で調べると「二条城」(沢島英太郎他著 相模書房 1942)、「二条城の創建及び沿革に関する考察」(京都大学工学部建築学教室 1959)、「二条離宮障壁大観」(帝室博物館編 便利堂 1940)、「恩賜元離宮二条城」(京都市教育部社会教育課編 1939)などの資料がみつかりました。この目録にはこれらの資料の所蔵館も記載してありますので閲覧を希望するときはメイン・カウンターで紹介状をもらって下さい。京都府立総合資料館の場合は紹介状は不要です。

〔質問例 7〕

有島武郎の遺言状があれば見たいのですが。遺言状があったのかどうかは不明です。

<回答>

「日本文学文献目録」(028.281;H)、「日本文学研究文献要覧」(028.91;N4)で調べてみました。両書とも有島武郎に関する多くの資料が掲載されていますが遺書に関する資料は特に見当りませんでした。次に有島武郎の伝記、評伝資料に収録されていないかを調べました。伝記や作家研究書は、研究対象となった人名から著者目録でさがす事が出来ます。有島武郎については「有島武郎論」(西垣勤著)、「資料有島武郎著作目録・著作解題」(佐々木靖章編著)、「有島武郎研究」(瀬沼茂樹著)、「有島武郎」(山田昭夫著)などの伝記、研究書が図書館にありましたが、佐渡谷重信著の「評伝有島武郎」(910.28K;As3開架)に有島武郎の遺書が掲載されていました。328ページ以後に(母上,行光,敏行,行之宛他の遺書)、「足助素一他への遺書」がのっています。又「近代文学研究叢書」(910.26;K5)の第22巻に有島武郎が収録されており、116ページからの著作年表に「遺書2通」(読売新聞大正12年6月9日)、「遺書素一氏宛」(読売新聞大正12年6月10日)、「遺書森本博士へ」(読売新聞大正12年6月11日)とされています。大正12年の読売新聞は同志社では所蔵していませんが、京都府立総合資料館にあります。

〔質問例 8〕

「国文学研究文献目録 昭和48年度版」に渡辺真理子著の論文「建礼門院右京大夫集」と「平家公達草紙」が

『国語国文学会誌』16号(1973年12月発行)に掲載となっているが、巻末の収載誌にも「国語国文学会誌」という誌名はのってなく、「學術雑誌総合目録」にものっていません。論文の掲載誌名がまちがっているのではないのでしょうか。

＜回答＞

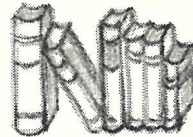
たしかに「国文学研究文献目録」にも「學術雑誌総合目録」にも「国語国文学会誌」というのはのっていません。そこで著者名からさがしてみましたが「雑誌記事索引」にも渡辺真理子著の論文は1点のみで九州大学発行の紀要に掲載されていました。「日本文学研究文献要覧」(028.91;N4)でも「建礼門院右京大夫集」と「平家公達草紙」が「国語国文学会誌」16号に掲載とのっていました。著者名からも同じ事しかわかりませんでした。次に文献目録類に収録される論文の収録対象誌はたびたび変わるわけではないので「国文学研究文献目録」の昭和48年版前後の収録誌名を調べたところ昭和49年版の収録誌に「国語国文学会誌(福岡教育大学)」というのが見つかりました。これは17号が1974年12月発行となっており、「国語国文学会誌」16号、1973年12月発行と巻次、年月が合い、又著者が九州大学の紀要にも論文を掲載しているところから「福岡教育大学国語国文学会誌」がさがしている資料だと思います。この雑誌は同志社では所蔵していませんが国文学研究資料館にあります。コピーが必要であればメイン・カウンターに申込んで下さい。

〔質問例 9〕

雑誌「混沌」第3号が見たいのですがどこで所蔵していますか。

＜回答＞

雑誌の所在を調べるには新分類027.5に分類されている雑誌目録類を利用して調べて下さい。全国の大学の所蔵する雑誌を収録した「學術雑誌総合目録」や国立国会図書館の「和雑誌目録」「欧文雑誌目録」を初め、大学や公共図書館の雑誌目録が参考室に置いてあります。「混沌」は學術雑誌総合目録や国立国会図書館の雑誌目録、各大学の雑誌目録にはのっていませんでしたが、「国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録」(027.5;K15)によると「混沌」の1号と4号のみを所蔵しており、発行が大阪の中尾松泉堂ということがわかりました。他に「混沌」を所蔵している所が見当りませんので発行者に問合せみて下さい。発行者の住所は「日本書籍総目録 索引編」(025.1;N3参考室)の発行所一覧の項のっています。



資料紹介

月刊ニューポリシー —— 新政策資料集大成 ——

各省庁に設けられた諸々の審議会、調査会、委員会などの答申や報告は、最も多い総理府の56、ついで通産省の32、厚生省の22、文部省の17、法務省の7などがあり総数200以上にもなっています。これらの資料はほとんどが限定版で非売品であり入手困難なものが多かったです。これらの資料を集めて出版されたのが「月刊ニューポリシー」で1981年4月に創刊号が出版されています。図書館も創刊号より購入しており、参考室にありますので利用して下さい。(バックナンバーは書庫にあります)請求記号は317;G14です。

〔内容の一例〕

- 昭和55年貯蓄動向調査報告(速報)
- 消費者問題に関する世論調査
- 生涯教育について(報告)
- 常用漢字表について(報告)
- 環境破壊、汚染防止について提言
- 景気動向指数



## 山本覚馬の建白書「管見」の写本について

今年の春、同志社大学図書館の書庫にある未整理図書の内から山本覚馬の建白書である「管見」の写本がみつかった。「管見」は青山霞村著「山本覚馬伝」（昭和3年12月10日発行、昭和51年9月20日改定増補版発行）に付録として記載されているのみで、他に写本又は引用されている資料は現在発見されていない。従ってこの写本は現在唯一の写本である。山本覚馬の思想を知る上で重要なものである。この写本がどんな経路で同志社大学図書館に納入されたか不明である。

写本は和紙仮綴じて縦24cm横17cm、本文22丁である。表紙に「山本覚馬建白」とあり、裏表紙に

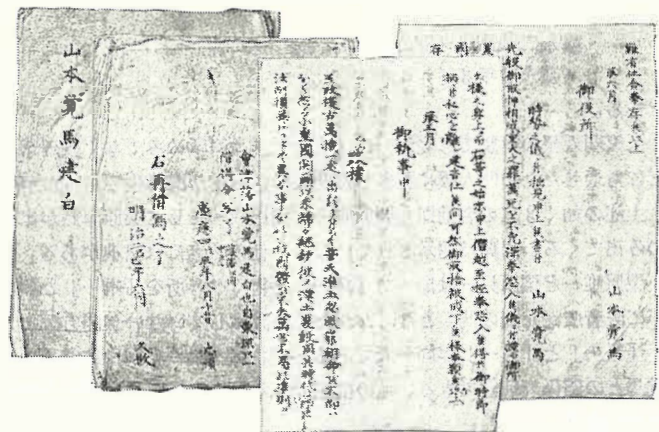
「会津藩山本覚馬建白也自栗原只一借得令写了 薩藩江囚中云云 慶応四戊辰年8月15日 忠順」

「右再借写之了 明治2己巳年6月 久徴」と墨書されている。

従ってこの写本は久徴が明治2年6月に写本したものである。

この建白書を作成した山本覚馬（1828—1892）は会津藩士でありながら眼病のため戊辰戦争に参加出来ず、薩摩軍に捕えられ上京の薩摩屋敷に幽閉されていた。眼病のため書物を読むことも、文章を書くことも不可能であった。

幽囚の身でありながら当時の時勢について苦慮し、私心を離れ、新政府が国家不易の国是を立て、新制度を採用し速かに国家を安定出来るよう願って建白たしのがこの「管見」である。この建白書は獄舎に起居



していた会津藩士野澤雞一に筆記させて、薩摩藩主に差し出された。差し出された日付については写本に辰3月、辰5月及び6月（慶応4年戊辰）とあるが文章からして慶応4年3月が正しいものであろう。

「管見」の内容は政権・議事院・学校・変制・撰吏・国体・建国術・製鉄法・貨幣・衣食・女学・平均法・醸酒法・条約・軍艦国律・港制・救民・髮制・変佛法・商律・時法・暦法・官醫の23項目にわたり山本覚馬の意見が述べられている。青山霞村著の「山本覚馬」の付録「管見」では「政権」が「政体」となっている。又「撰吏」の項目が欠落している。然し「変制」の最後の一行が欠落し、「撰吏」の末尾4行が「変制」の末尾に記載されたている。

「撰吏」

「フロイス」の「レーマン」曾て余に書を送て曰く日本は楯吏多くして吏の給料も少く故に吏を減じ能者をあげ給を増し与ふべし、又蒸気（鉄）道伝信機等を制（製）し、歩行の労を省き事有る時は糧米兵器輸送或は軍を催すも速にあらそうべく、常に津港に艀へる船も尽く外国制（製）を用い、和制（製）の船よりは賦を多く出さしむべし、さすれば自ら外国制（製）に交じ、士に至りては無能遊惰のもの多く徒に刃剣を帯び農工商を侮蔑し却て三民によって生活するを知らず、此等は尤も政治の悪弊也。且刃剣も古来国俗の佩びる事にて無益にもあらざれども要用の器にも非ず。追々国の開くるに従い之廢停するも可ならんという、此説の当也、先ず第一に人材を抽擢し国是を定むべし。

次に「平均法」を見ると富者は常に逸し貧者は常に勞す。如此貧富偏るもつまりは国の貧に至る也。且嫡子は愚なるも家督を継ぎ、2、3男は賢なるも産業もなく徒然に世を過すが国の悪弊莫大也、然れども富者をして貧者に財を分ちがたし、先天子を除くの外侯伯士農工商に至るまで其子五人有れば5人、3人なれば3人、人数に依りて己の家督を各々へ平等に分与すべし。さすれば貧富偏することなく遂に日本の富を致すに至るべし。とのべている。正に先見の明である。遺産相続における子の平等配分は80年後の昭和20年代になってやっと実現した。又「時法」では一昼夜12時間制（刻制）をやめ、西洋各国の如く午前午後各々12時間制を採用し、一時一分一厘と分け正しくすべしと、「暦法」で一年を365日と定め4ケ年の暦を一度作れば万代不易であるとし、紀元も度々改めるは不都合故、神武帝即

位の年を始めとして何年何年と数えれば良いと述べている。紀元の年は別にして合理性のあるものである。

以上「管見の」一端を述べたが、一下級武士が述べた意見としては、画期的で進歩的なもので、盲目になったがため心眼が開いたと云われるが正にその通りである。

この建白書は薩摩藩を通じ明治政府の諸政策にかなりの影響を与えたものと思われる。

明治23年に公布された明治憲法に「管見」の精神が実現されている。憲政資料の初期的資料として重要な地位を占めるものと云える。

「山本覚馬伝」（49頁）に山本覚馬は西洞院上長者町上ル西側の一向宗の一間に洋学所を設け、英学は仙台藩横山謙助に、蘭学は京都の蘭方医栗原唯一に担任せしめたとある。

「洛医人名録」（万延元年・1860年）には栗原唯一の名はなく、栗原淳蔵という女科の医者の名前が見え、名は篤字は叔恭号は恒斉とあり、京都室町下立売北に住すとある。「天保医鑑」（天保14年・1843年）でも栗原淳蔵は産科の医者で衣棚下立売南入る醍醐殿御内（公卿醍醐忠順1830～1900）に住居して居り、漢医で賀川子永のもとで積極的に手術を行ったとある。備後の人である。前述の二著に医者栗原唯一の名は何も見当らない。

次に写本の原本の所有者である栗原只一の名前は時習堂弟子籍（広瀬元恭門人帳）（京都の医学史資料編401頁）に

帝都 死  
嘉永二載姑洗（洗の誤り） 栗原只一  
（嘉永2年3月）

とある。

医家門人帳の解説で杉立義一は「広瀬元恭は医学のみでなく生理学、物理学を講じ、さらに兵書も訳し、築城法などにも通じたため門人帳に記名した門弟のすべてが医学生であったか否かは不明である。」（234頁）とのべている。

上述の如く3名の名前即ち栗原唯一、栗原只一そして栗原淳蔵が出てくる。この中で栗原唯一は「山本覚馬伝」のみ出てくる。出典は明示されていない。他の2名には出典がある。

栗原唯一と栗原只一は同一で「只一」と書くべき所を「唯一」と誤記したのではないか？ 蘭方医とあるが嘉永2年に医者広瀬元恭の門人となったがため医業はしていないが蘭方医としたのではないか。

「唯一」と「只一」が同一人であるとすれば「只一」が山本覚馬の「管見」を早い時期に筆写していることは山本覚馬との関係で理解できる。私の推定であるが山本覚馬は盲目のため栗原只一に建白書の最終的監修を依頼したのではないか？

醍醐忠順がその写本を借用して筆写させた。建白書が提出されて半年も経ていない。さらに翌年久徴が忠順の写本を借用して筆写させたのがこの写本である。久徴とは薩摩上席家老で日置の御領主島津右衛門久徴であろう。（明日鉄男氏による。）「山本覚馬伝」の附録に引用された写本とこの写本が同一のものか否かは明らかではないが、項目の欠除や、欠字のため引用された写本とこの写本は異なるものと推測する。そうすれば引用された写本は何処にあるのか？

山本覚馬は釈放後盲目の身であったが、その知識が重視されて京都府の顧問となり、京都府の新しい施政に非常に貢献した。又明治8年新島襄及びデービス博士と共に同志社を創設し、新島の死後同志社総長にもなった。又府会議員にもなり初代府会議長をつとめた。

「巖吏」等の解説について整理課石橋美治氏のお世話になりました。

#### 参考文献

改定増補 山本覚馬伝（289.3; Y9-1a）

京都の医学史資料篇（490.21; K）

幕末維新人名事典（281.03; B3）

（閲覧課 大西友三郎）

“びぶりおてか” 同志社大学図書館報 No. 32 1982年10月1日 発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971

編集責任者 川上 皓 市（図書館庶務課長） 印刷 栄文堂印刷所